

## 2007 FCJ シリーズ第 13-14 戦

### ■ 9月13日 フリー走行1日目 DRY

今回開催されたスポーツランド菅生は事前テストもなく、FCJ 初開催のサーキットとなりました。その分現地に行く前に他のレースの ON ボードビデオを見たり、レースビデオを見て、イメージトレーニングをして挑みました。

そして完璧な DRY コンディションの中始まったフリー走行では、開始と同時に少しでも沢山走ろうとコースインします。

自分がイメージしてきた通り走っていてセッション真ん中くらいで10番手くらいだったのですが、そこから中々タイムが上がリません。トップとのタイム差も広がり始め、自分はブレーキングを詰めることばかり考えてしまいます。しかし、そのままタイムも中々上がらず、自分は速い人の後ろに付いて走ろうとしたのですが、そこで焦ってしまいスピン。結局19番手でこのセッションを終えることとなりました。

結局自分は突っ込みすぎる傾向にあり、立ち上がり全然悪く、頑張れば頑張るほどタイムに繋がリませんでした。

### ■ 9月14日 フリー走行2日目 DRY

この日は朝から NEW タイヤでの走行となり、昨日の走行で悪かった、立ち上がりを意識して走り始めます。そして今回も速いドライバーの後ろに付いて走り、自己ベストは少しづつ縮めていきます。けれど立ち上がりを意識して、出来るだけ早くアクセルオンしていこうとするあまり、向きが変わってないのにステアリングをきって、アンダーを出しながら走っていました。

それを中々直せないまま走ってしまったので、NEW タイヤだったにも関わらずすぐにフロントタイヤを痛めてしまい、後半は凄くきつくなってしまいました。レース中も後半になるにつれ、フロントタイヤがきつくなっていく方向だと思うので、そこらへんも考えて走らなければいけないあと実感しました。

走りとしては、前半のセッションでは突っ込みすぎるクセが中々直せず、そこが上っているコーナーが多いだけに余計タイムロスしていました。後半の高速セクターでもタイム差は少ないものの、やっぱり突っ込みすぎるクセがまだ直っておらず特に最終コーナーは入り口で突っ込んでいるので、前の選手に追いついているように感じるのですが、上りがきつくなってきたらへんでアクセルオフしなければいけないので、余計ロスが大きくなっていました。今回のフリー走行では自分の悪いところがかなり浮き彫りになっていたのですが、そこをそのセッション中に直すことが出来なかったのが、タイムアップに繋がらなかつた原因だったと思います。

### ■ 9月15日 公式予選 DRY

#### 第13戦 19番手

この日も朝から天気もよく、完璧な DRY コンディションでの予選となりました。昨日のフリー走行で悪かった、突っ込みすぎるクセとレースのことも考えて、「アンダーを出してタイヤを痛めない」ということを考えて走りました。走り始めてから徐々にタイムを縮めていき、アタックを開始しようとした3周目、他車のクラッシュで赤旗、予選中断となりました。そこで一旦ピットインして内圧を調整し、頭の中で何回もイメージを思い浮かべます。予選再開となり、残り時間もあまりなかったことから、すぐにアタックを開始しました。徐々にタイムを縮めていき、前日の NEW タイヤのアタックより0.7秒縮めることが出来ました。しかしちょうど自分がだしたタイム付近はタイムも特に接近していて、最終的に19番手という結果で第13戦の予選を終えることとなりました。

#### 第14戦 14番手

10分のインターバルを挟んで行われた第14戦の予選。さっきの予選では0.1秒の中に8人と凄く接近していたところでの順位になってしまったので、ちょっとのことで順位が入れ替わるポジションにいることはわかり、自分のクセである突っ込みすぎることを特に意識した上で、いかに早くアクセルに足を乗せていけるかというところに集中して走りました。予選開始と共にすぐにコースイン、計測2周目からアタックを開始して徐々にタイムを上げていきます。計測3周目には1回目の予選とほぼ同じくらいなタイムを出します。その後一旦クールラップを挟み、再度続けて2周アタックしたのですがタイムアップにはならず、結局14番手で2回目の予選を終えることとなりました。この予選では少しタイムを縮める為の「早く向きを変える」ということのポイントを見つけることが出来たと思い、午後から行われる決勝レースに向けしっかりイメージしました。

#### 第13戦 決勝 13位 DRY

午後から行われた第13戦の決勝では前日のフリー走行ではないくらい、路面温度、気温共に上昇してそれを計算に入れて内圧を調整しました。グリッドに着く周、フォーメーションともにタイヤを温めるのですが、特にフロントタイヤを温められるようにマシンを動かします。そしてシグナルに集中して、シグナルレッド、消灯、スタート！

タイミングもあまりよくなく、あまりポジションもあげれないまま1コーナーへ。そしてヘアピンで2台を、続くシケインの進入で更に1台をパス。順位を3つ上げたのですが、シケインの立ち上がりですぐ前の車がスピン。真後ろの自分はどうにか避けられたのですが、僕の後続の車が巻き込まれ、多重クラッシュが発生しました。しかしすぐにセーフティーカーは入らず、そのまま1周が過ぎた1コーナーで前方の車が勘違いをして、急に減速。しかしこのときに黄旗は出ておらず、その後ろでは隊列がぐちゃぐちゃになり、その時に順位を3つつくらい上げます。しかしその後後にセーフティーカーが入り、自分も3つつ順位を上げたのが気になり、その3台を先に行かせることにしました。そして4周にわたりセーフティーカーが入り5周目に再スタート。再スタート直後に3コーナーで1台がコースアウトしてポジションを14位に上げます。そのままレインボーコーナーの立ち上がりを上手く合わせ、馬の背コーナーのブレーキングで更に1台をパスして13位にポジションを上げました。ここからは前の車に追いつくところと、少し離されるコーナーがあり、1番のパッシングポイントである1コーナーで抜くために最終コーナーに集中して走りました。最終コーナーは自分の方が速いのですが、インを刺すまでには至らず、後ろからもプッシュを受けます。しかしそこで焦らず、レースでパッシングポイントになる、最終コーナーとバックストレートエンドの立ち上がりだけはしっかり加速するように意識して走り、結局13位のままチェッカーとなりました。この日のレースでは後ろに付かれたときのミスはそんなになかったのですが、全体的にペースがイマイチで前の車のパッシングが出来なかったのが、14戦のレースでは予選同様に速く走るために少しでも早く向き変え、アクセルオン出来るように意識して走ります。

■ 9月16日 第14戦 決勝 15位 DRY

この日は午前中にレースが行われたにも関わらず、前日より更に路面温度、気温が高かった上に、レース距離も13戦の18周に比べ25周と多く、レース後半のタイヤの磨耗が気になります。このコースでは特にフロントタイヤの磨耗が多く、レース後半につれアンダー傾向になっていくので、フロントタイヤを痛めないようにタイヤを温めグリップに着きます。フォーメーションラップでもしっかりタイヤを温め、いよいよ第14戦決勝のスタートです。

シグナルに集中して、

シグナルレッド・消灯・スタート！

今回も順位の変動がないまま1コーナーへ。そしてシケインの立ち上がりで縁石に乗りすぎてしまい、続くハイポイントコーナーまでの加速が悪く、1台にインを刺され15位に。しかし、そのままレインボーコーナーの立ち上がりを合わせバックストレートエンドで1台を抜き返し14位にポジションを戻します。そして続く2周目の1コーナーで1台のインを刺し13番手へ。4周目には前方の車が1コーナーでコースアウトして12位、自分もすぐ前の車を1コーナーと2コーナーの間でパスして11位へポジションを上げます。そこからは前も後ろも少し離れた状態での走行となったのですが、前日の悪かったところを意識して立ち上がりに全てを集中して走った結果、どんどんタイムも上がり、すぐに前の車に追い付くことが出来ました。しかし前の車に追い付くと自分もどこで仕掛けようかなど気がはやってしまい、SP コーナーでコースアウトしてしまいました。すぐに復帰して順位は変わらなかったのですが、そこからは一旦落ち着いてまた前の車に追い付くことだけに集中します。そしてレースも中盤に入り、周りの選手のミスも増え、コースアウトが増え始めます。12周目には1コーナーで1台が、13周目にはまたしても1コーナーで2台がコースアウトして一気に8位までポジションが上がりました。そこからもいろんなコーナーでコースアウトが続出する中、自分もミスはあるものの、ペースはそんなに落とすことなく前の車を追います。そして後半に入りタイヤのグリップも大分落ちてきたのですが、そのロスを少なくするようにラインや走り方も少しずつ変え、ペースを維持します。23周目にはハイポイントコーナーで1台がコースアウトして7位へ。しかし前との差は詰るものの追い付くまでには至らず、最終的に7位でチェッカーとなりました。

しかしレース後にオフィシャル側から「黄旗区間の減速義務違反」というペナルティーを受け、決勝タイムに+30秒加算という裁定を受けてしまいました。

このペナルティーは「レース中、黄旗区間では何キロまで減速しなければならない」などとハッキリとしたことが書かれているわけではなく、オフィシャルさんの見在目での裁定なので、自分も凄く悔しい結果ではあるのですが、自分の他にも7人このようなペナルティーを受けた選手もいて、しょうがない裁定だったのかなと思います。

しかしその中でペナルティーを受けていない選手もいるので、今回は自分のミスとして、二度と同じミスを繰り返さないように、これからのレースに繋がりたいと思います。

本当にすいませんでした。

今回のレースは自分がパスした以外に、周りのミスで順位が上がったのも大きかったのですが、レース中のベストラップも全体の6番手とタイムも良く、自分より前でチェッカーを受けたドライバーよりもいいタイムで走っていて、今期で1番いいレースが出来たと思います。

後はこういう順位で走れる以上、予選の順位からもっと上げて、レース中のミスをもっとなくし、残り4戦絶対に結果に繋がりますので、これからも引き続きご指導、応援の方よろしくお願いします。

Team NAOKI with LE PRIX SPORT

吉田 広樹